

取扱説明書

自走式清掃管理機 “パークスイーパー”

PS560



0911-70010



- 取扱説明書本文中に出てくる重要危険部分は、製品を使用する前に注意深くお読みいただき、十分理解してください。
- 本製品ご購入の際には、販売店より安全のための使用方法についての説明をお受けください。
- 取扱説明書はいつでもごらんになれるよう、品質保証書とともに大切に保管してください。

株式会社

オーレック

《販売店様へ》

本製品納品の際には納品前点検を行い、お客様から商品受領書をお受け取り後、①メーカー控えを専用封筒にてご返送願います。

目 次

項 目	頁
《はじめに》	1
《本製品の規制について》	1
《保証とサービスについて》	1
《定義とシンボルマークについて》	2
《安全に作業をするために》	2
《開梱後の組み立てについて》	6
《各部の名称》	7
《方向について…》	8
《各部のはたらき》	8
《上手な運転のしかた》	9
運転前の始業点検 ----- 9	12
エンジン始動のしかた ----- 11	13
吸い込み作業のしかた ----- 12	
旋回のしかた -----	12
トラックへの積み降ろしのしかた -----	13
《上手な作業のしかた》	15
吸い込み作業のしかた ----- 14	
《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》	15
ミッションオイルの交換 ----- 16	16
エンジンオイルの点検・補給・交換 -----	16
《各部の点検・整備・調整のしかた》	20
点火プラグの点検・調整のしかた ----- 17	18
燃料パイプの点検のしかた -----	18
エアークリーナーの清掃のしかた ----- 17	18
各部ワイヤー調整のしかた -----	18
《ファンの点検・交換のしかた》	20
《長期保管のしかた》	20
《そのほかの点検》	21
《仕 様》	22
《機械を他人に貸すときは…》	22
《工具袋・同梱品明細》	23
《定期自主点検表》	24
《自己診断表》	25
《エンジンの不調とその処理方法》	26

《はじめに》

このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございました。

この取扱説明書は本製品を常に最良の状態に保ち、安全な作業をしていただくために、正しい取扱い方法と簡単なお手入れ方法について説明してあります。

ご使用前に必ずこの取扱説明書を良くお読みいただき、安全な運転作業と正しい取扱方法を十分理解し、安全で能率的な作業にお役立て下さい。

又、お読みになった後はいつでも取り出してご覧になれるよう大切に保管し、本製品を末永くご使用頂けますようご活用下さい。

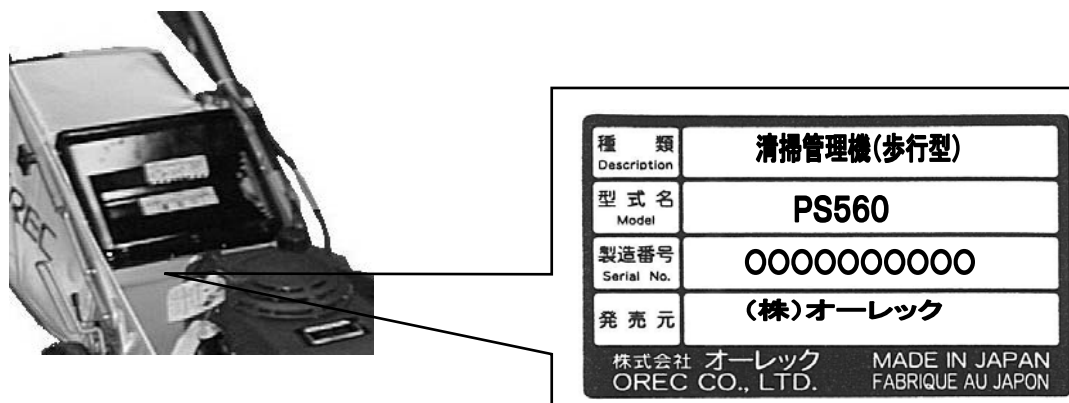
尚、品質・性能向上及びその他の事情による部品等の変更で、お手元の製品と本書の内容が一部一致しない場合がありますので、あらかじめご了承下さい。

《本製品の規制について》

本製品は、公園・グラウンド・工場・道路緑地帯等の落ち葉清掃を主目的として開発しておりますので、それ以外の用途には使用しないで下さい。この場合には保証の対象外となる場合があります。

《保証とサービスについて》

本製品の保証期間は、購入後1ケ年間、又は50使用時間(専業としての使用については6ケ月間、もしくは50使用時間)の内どちらか早い時点で到達した方となっております。ご使用中の事故・ご不審な点及びサービスに関するご用命は、お買い上げ頂いた販売店又は当社営業所までお気軽にご相談下さい。その際、『商品型式名と製造番号・搭載エンジンの型式名』を併せてご連絡下さい。






「取扱説明書」に記載してある適正な点検・整備を怠った場合、及び仕様を超えた使用・改造等によつての故障・事故については、保証の対象外となります。

◎この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年と致します。但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等についてご相談させていただく場合もあります。又、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただく場合もあります。

《定義とシンボルマークについて》

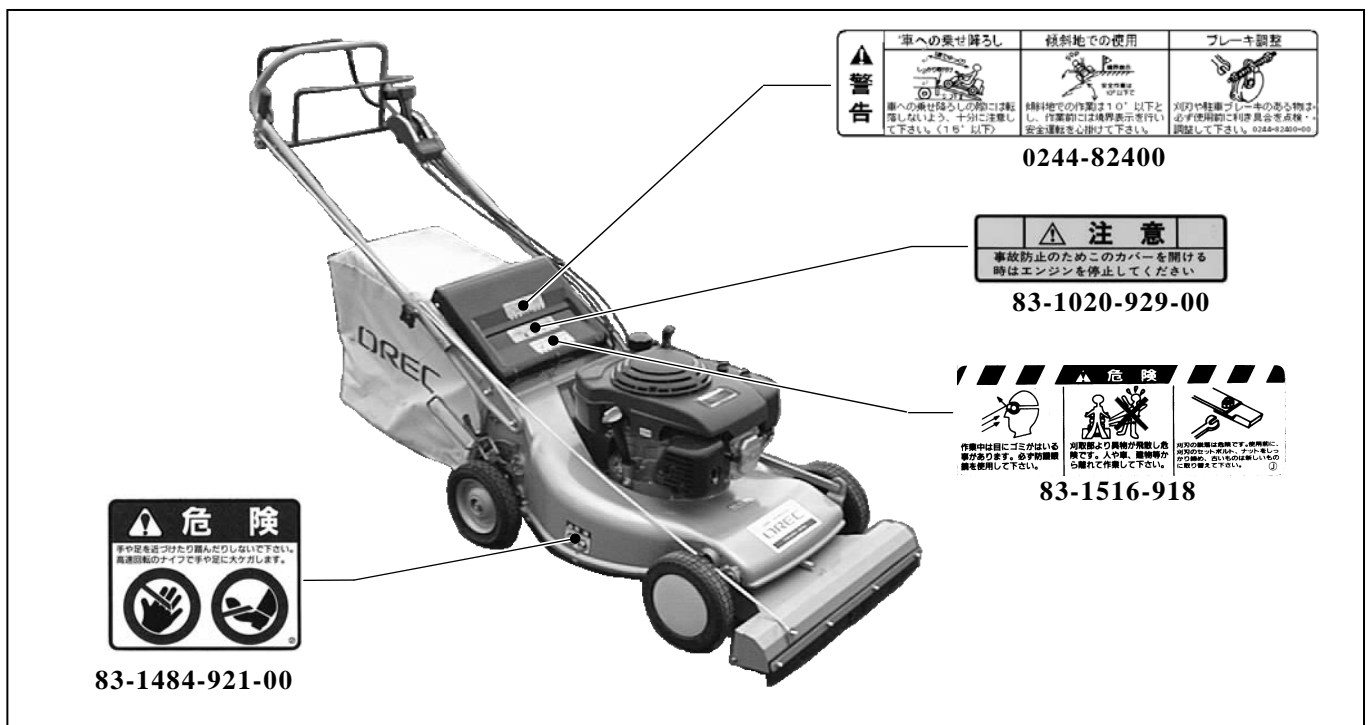
本書では、危険度の高さ(又は事故の大きさ)に従って、次のような定義とシンボルマークが使用されています。以下のシンボルマークがもつ意味を十分に理解し、その内容に従って下さい。

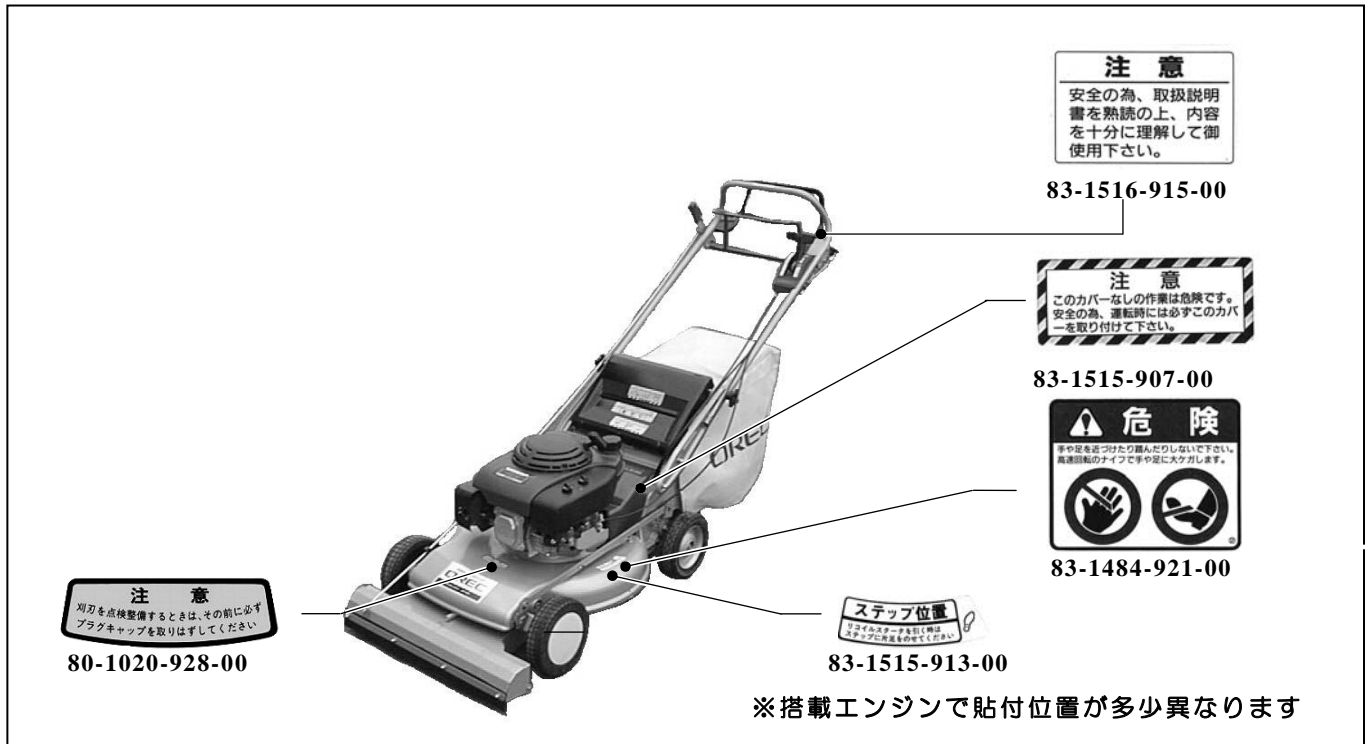
シンボルマーク	定 義
 危 険	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
 警 告	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
 注 意	その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。また、遵守又は矯正しないと、製品自体に損傷を与えるものも示します。
参 考 ;	操作、保守において知っておくと便利な製品の性能、誤りやすいミスに関する事項を示します。

《安全に作業をするために》 …重要危険項目…

(1) 警告表示マーク

- 以下の危険表示マークは本項目内における重要危険事項の中からとくに重要なものとして厳選されており、本体に貼付されています。ご使用前に必ずお読みいただき、十分理解して必ず守って下さい。
- …危険表示マークが見えにくくなった場合には、貼り変えるなどして常に明確に識別できるようにしておいて下さい。 〈23 頁…消耗品明細 頁参照〉
- …本機はガソリンを燃料としており、作業中はもちろん機械のそばでのくわえたばこや焚き火等の裸火照明は引火の危険がありますので絶対にしないで下さい。





(2) 作業前の注意

- 本機の運転に際しては、使用上の注意事項を十分理解し、安全運転を徹底して下さい。
- 所有者以外の人には使用しないで下さい。
- 過労、病気、薬物の影響、その他の影響により正常な運転操作が出来ない時には作業を控えて下さい。又、酒気を帯びた人、妊婦、若年者、未熟練者も作業をしないで下さい。

▲ 機械の回転部に巻き込まれたりしないよう、作業衣は長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、滑り止めのついた長靴や帽子又は、ヘルメット、防護眼鏡等を必ず使用して下さい。

- 作業を開始するときには、周囲に人や動物、車両等が無いことを確認して下さい。

▲ 安全のためのカバー類はもとより、標準に装備されている部品を外しての運転は、非常に危険です。事故防止のためこれらのカバー類、部品は必ず装着した状態で使用して下さい。

- 必ず、タイヤ取付けボルトが確実に締まっているか点検し、緩んでいるときは、しっかり締めて下さい。

▲ ファンの脱落は危険です。ファンのセットボルトをしっかり締めて下さい。又、古いものは新しいものに取換えて下さい。

▲ 小石やその他の異物は事前に取り除き、障害物はその位置を確認した後に目印となる物を立てた後で作業を始めて下さい。又このような圃場では、安全のために通常よりも高い位置で作業を行って下さい。異物を吸い込みファンが欠けたり石等の異物が飛散し危険です。

⚠ 排気ガスによる中毒防止のため、屋内では使用しないで下さい。

- 転落防止のため、川や崖に向かっての作業はしないで下さい。
- 10°以上の勾配での傾斜地作業や、トラック搭載用ブリッジの勾配が15°をこえると危険です。安全作業のため、これらの勾配角度未満でご使用ください。

⚠ 平坦部と傾斜部との境目（路肩）を走行する場合は、路肩崩れや転落の危険性があります。十分に安全な平坦地を走行して下さい。

- 斜面で本機の山側にいると足を滑らせた場合、本機の下側に体が入ることがあり危険です。特に湿った斜面は滑りやすく危険です。斜面では本機の山側にはいない様にして下さい。

⚠ 暗い時、視界が悪いときの使用は危険です。周囲の状況が十分に把握できないときには使用しないで下さい。


⚠ 安全作業の障害となるような本機の改造(夜間作業用のライトの装着、ファンカバーの一部切断等)は絶対にしないで下さい。これらの改造に起因する事故、及び不具合に関しては、一切の責任を負いかねます。

(3) 燃料給油時の注意

- 給油は必ず燃料タンクの油面上限マーク以下にし、万々多く入れ過ぎたときは、マーク以下になるまで抜き取り、又周辺にこぼれた燃料は必ずふき取って下さい。

⚠ 火傷や火災の危険がありますので給油はマフラの温度が十分下がってから行って下さい。

(4) 始動時の注意

- エンジンの回りや排気ガス方向には、燃えやすいものを近付けないで下さい。
- 走行クラッチ、ファンクラッチを「」位置にしてから始動して下さい。
- 回りに人や動物や車両等がない事を確認し、また周囲の安全を確認してから始動して下さい。

(5) 積み降ろし時の注意

〈13頁…参照〉

- 平坦で安全な場所を選び、トラックが動き出さないようにエンジンを止め、サイドブレーキを引いて、確実に駐車をして下さい。
- 丈夫なブリッジを確実に掛け、ゆるい勾配でエンジン回転を下げ、積み降ろし共に前進「1速」位置でゆっくり行い、その他の位置には絶対入れないで下さい。

(6) 作業中の注意

- ・安全のため、余裕を持った運転を心掛け、急発進・急停止・急旋回はしないで下さい。

⚠ 排気マフラは高温となります。火傷をしないよう手等を近づけないで下さい。

- ・バックする時は、子供や動物がいない事を確認して機械との間に挟まれたり、崖からの転落等がない様足場に注意して下さい。
- ・スリップによる異常な音・匂い・発熱は火災の原因です。その様な時は、すぐにエンジンを停止して点検・修理して下さい。

⚠ 排出口付近は、石等の異物が飛散し大変危険です。人や車、建物などから離れて十分ご注意の上作業して下さい。

⚠ 回転部分は危険です。とくにファンカバー内は危険ですので、運転中は身体を近付けないで下さい。

⚠ 冷却風の吸込口、シリンダ付近の草詰まりはエンジンの焼付きや火災の原因です。外側のみならず、内側もこまめに清掃して下さい。又、エアクリーナ内部の清掃も同時に行ってください。

⚠ 石等危険物の多い場所では、事前に石等の異物は取り除き、障害物の位置を確認した後を目印等をつけ、安全のため通常よりも高い位置で作業をして下さい。異物の吸い込みによりファンが欠けたり、石が手前に飛んできたりして危険です。

- ・作業中、石・木株等に当たったときは、直ちにエンジンを停止し、ファンの回転が停止した事を確認後、欠けや曲がりの有無を調べて必要であれば修正・交換をして下さい。

(7) 作業終了後の注意

- ・本機より離れる時は、必ずエンジンを止めて下さい。キースイッチがある物は、キーを抜いておいて下さい。(該当製品)
- ・安全のため、燃料コックは必ず閉めて下さい。

(8) 点検・整備時の注意

- ・機械の点検・調整・整備をする時は、必ずエンジンを停止して下さい。

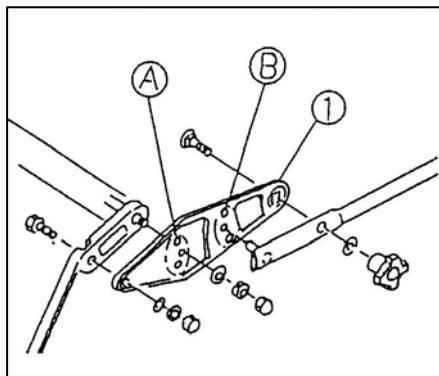
⚠ ベルトやファン部の安全カバー、及び飛散防止用のカバーの破損は危険です。破損した場合は使用前に必ず修理しておいて下さい。

- ・取り外した回転部のカバー類は、必ず元の位置に正しく取り付けて下さい。
- ・ファンセットボルトは安全のため、ファン交換の際には一緒に新品と交換して下さい。

⚠ ゴムなどの燃料パイプは古くなると、燃料漏れの原因となり危険です。3年ごと、又傷んだ時には、締め付けバンドとともに新品と交換して下さい。

- ・走行クラッチ・ファンクラッチ・ブレーキ・スロットル・ギアチェンジ等の点検、調整は十分に行ってください。
- ・点検・整備を行う場合、又シートをかける場合は火傷や火災を防ぐため、マフラやエンジン本体の冷却状態を十分確認したうえで行ってください。
- ・ナイフブレーキ、走行（駐車）ブレーキのあるものについては安全のため、使用時間が100時間に到達しない時点で交換して下さい。

《開梱後の組立について》

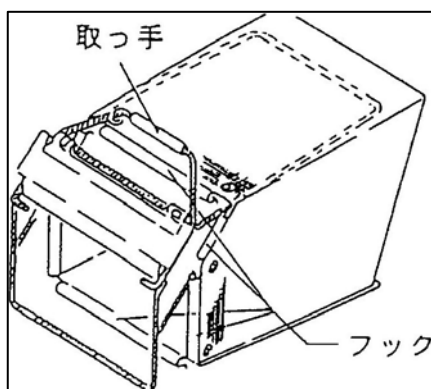


ハンドルの組立て

(1) ①のハンドル取付板を本体に取り付けます。

(2) ハンドル取付板にハンドルを取付けます。

- ハンドル先端のピンをBに差込み、角根ボルトを内側より通し、座金・ノブナットで固定します。
- AとBの穴の位置で、ハンドルの高さを調整して下さい。

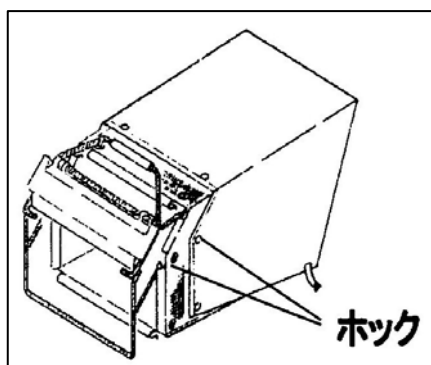


収草バックの組立て

(1) 収草バックの中にバックフレームを入れて下さい。

(2) 収草バックのフックをバックフレームに掛けて下さい。

《バックカバーの取付け》



芝が少ないところ、土埃があるところで作業する時に、バックカバーを取付けると上半身にかかる埃が少なくなります。

- 収草バックのホックに、バックカバーのホックを止めて下さい。
- 収草バック後の取ってをつかむ時は、バックカバー後の切り込みより取ってを差し込んで下さい。

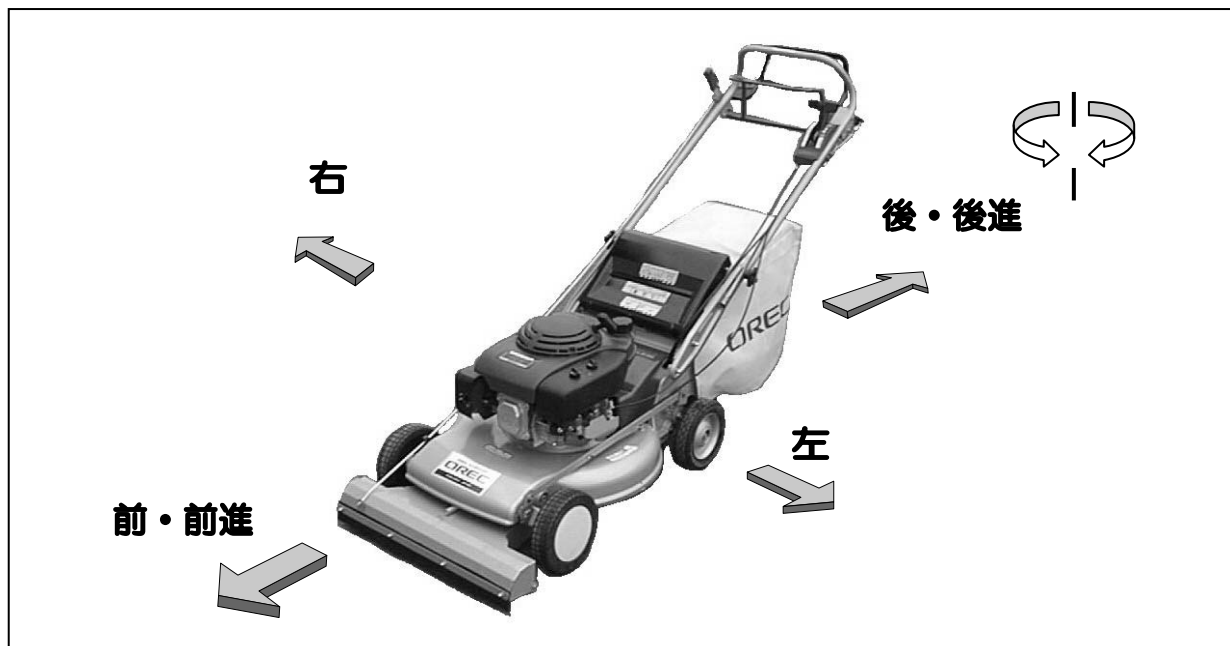
《各部の名称》



《方向について…》



本機の前後左右は、下図のように作業者から見た方向で表します。

本文中の、「前進」・「後進」についても、作業者からみた方向で表します。





《各部のはたらき》

① 走行クラッチレバー

エンジンからミッションへの動力を断続させます。レバーを前へ倒しハンドルと一緒に握ると「」位置の状態、離すと「」位置の状態になるデッドマン式クラッチレバーを採用しています。

② ファンクラッチレバー

エンジンからファンへの動力を断続させます。走行クラッチレバーと同様に、引き上げると「」の状態、離すと「」位置の状態になるデッドマン式クラッチレバーを採用しています。


③ 変速レバー

走行速度の選択時に操作します。変速は前進のみで1速・2速の2段階です。

変速操作は走行レバーから手を離し、本機を停止させた後操作して下さい。

吸引する落ち葉の量に応じて「1速」位置ではゆっくりと、「2速」位置ではスピーディーな前進が行えます。

参考；

ファンは高速で回転する為、ファンクラッチレバーを一気に「」位置にすると、エンストする場合があります。レバーの操作はゆっくりと行って下さい。

▲ 注意

変速レバーの操作は走行レバーを「」位置にして行って下さい。

走行レバーを握ったまま変速レバーの操作を行なうと、ミッション内部のギヤが破損する恐れがあります。

④車高調整レバー

作業（吸い込み）高さの調整を行います。調整は3段あります。

⑤ハンドル固定ノブナット

ハンドルの高さを調整し、固定します。

⑥スロットルレバー

エンジンの始動、停止、回転数の増減を調整します。

⑦ノズル開閉レバー

吸い込み口を開閉する調整を行います。

参考：

車高を低くしすぎて作業を行うと様々な弊害の原因となります。凸凹が多い圃場では、凸の方に車高を合わせ、異物の噛み込みがないようにして下さい。

《上手な運転のしかた》

運転前の始業点検

安全で快適な作業を行うために「定期自主点検表」〈24頁参照〉に従って始業点検をおこない、異常箇所は直に整備をしてから作業を始めて下さい。

▲ 警告： 本機に貼られている注意、危険マークも良く読んで下さい。

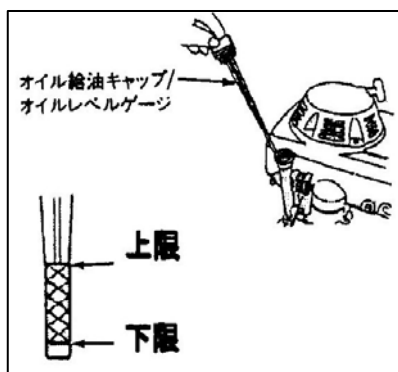
《エンジンをかける前に点検しましょう》

▲ 危険

- ①締め切った室内でエンジンの始動及び暖機運転をしないで下さい。
… 有害な排気ガスで空気が汚染され、ガス中毒をおこす恐れがあります。
- ②ガソリンエンジンを搭載していますので、くわえタバコや裸火照明はガソリンに引火したりして危険です。絶対に行わないで下さい。
- ③エンジンの始動時には、レバーの位置と周囲の安全を確認して下さい。

▲ 注意

- エンジンオイルの点検はエンジン停止後、エンジンが冷えるのを待って火傷に十分注意して行って下さい。



■ エンジンオイルの点検

エンジンオイルを確認して下さい。

◎ 給油栓がオイルゲージを兼用しています。

オイルゲージの上と下の目盛線の間にはオイルがなければ上の目盛線までオイルが付くようにエンジンオイルを補給して下さい。＊エンジンによって注油方法が異なります。

－エンジンはず必ず水平（対地）状態にして下さい。そうしないと正しいオイル量が示されません。－

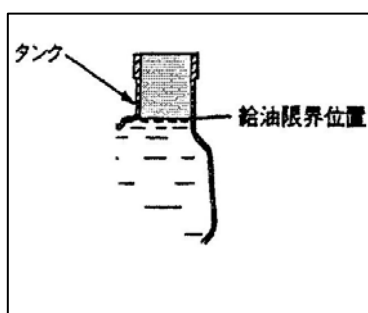
参考；

- エンジンは水平にして給油栓はねじ込まずに差し込んで点検して下さい。
- 使用するエンジンオイルはSD級以上の良質の新しいオイルを使用し、気温によって次のように使い分けて下さい。

夏季（10℃以上）	SAE 30， SAE 10W-30， 又はSAE 40
冬季（10℃以下）	SAE 5W20， 又はSAE 10W-30

▲ 警告

- 燃料を入れる時には必ずエンジンを停止させてから行って下さい。
- エンジンとマフラーが冷えた後、入れ過ぎて燃料をこぼさないように注意し、もしこぼれた場合にはきれいにふき取って下さい。



■ 燃料の点検と補給

燃料を確認して下さい。

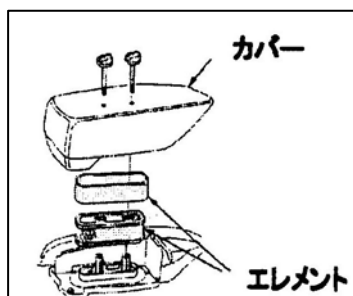
燃料はレギュラーガソリンを入れて下さい。

〈燃料タンク容量は2.0リットルです。〉

- 燃料補給後は給油キャップを確実に締め付けて下さい。
傾斜地での使用は、給油口内フィルタの規定油面上限以下で使用して下さい。〈11頁…エンジン始動のしかた参照〉

▲ 注意

- 燃料は常に新しいもの使用して下さい。古い燃料又は長期間(3ヶ月以上)ポリタンクに保管した燃料は、エンジンの不調や破損の原因となることがあります。



■ エアークリーナーの点検

ネジを外し、エアークリーナーカバーを外します。

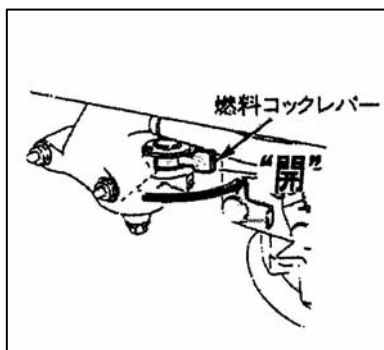
エアークリーナーのエレメントの汚れを点検します。

汚れがひどい場合は、清掃してください。

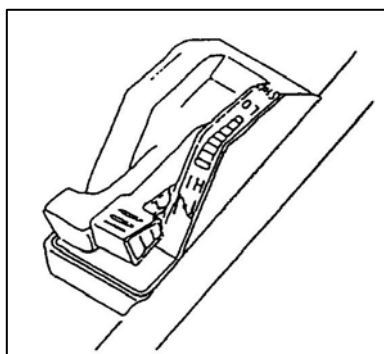
〈清掃の方法は17頁参照〉

カバーを取り付け、確実にネジをしめてください。

■ エンジン始動のしかた

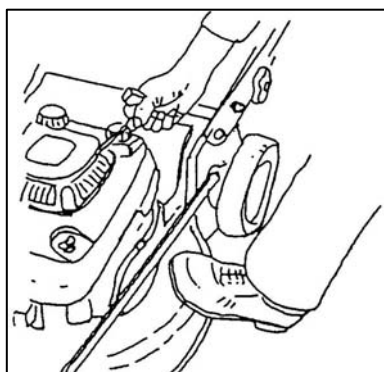


①燃料コックを「開」位置にして下さい。



②スロットルレバーを『N』位置にして下さい。

参考；エンジンが暖まっている時は、『H』の位置で始動できます。



③ファンカバーに片足をのせて、本体が動かないようにしっかり押え付け、リコイルグリップをゆっくり引いて、圧縮を感じる位置から一旦戻した後、勢いよく引っ張って下さい。

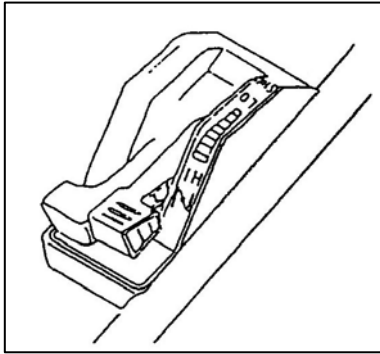
▲ 注意：

リコイルグリップを引く時に、後方に人や障害物がない事を確認して下さい。

エンジンの始動後は、スタータノブは元の位置にゆっくりと戻して下さい。

④エンジン始動後は、スロットルレバーを『L』位置でしばらく（3分程度）の暖機運転を行って下さい。暖機運転を行なうことにより、エンジンの各部にオイルを行き渡らせ、エンジンの寿命を延ばします。

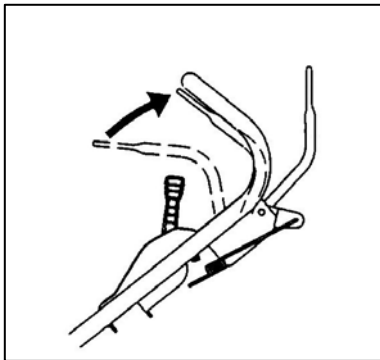
《吸い込み作業の仕方》



①スロットルレバーを『HI』に合わせます。

▲ 注意：

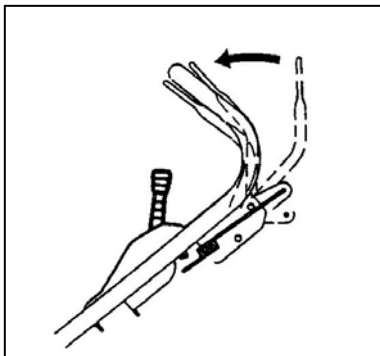
本機から離れる際には、かならずエンジンを停止して下さい。



②ファンクラッチレバーを手元へ倒して、ファンを回転させます。

▲ 注意：

ファンクラッチレバーを半分握っていると、半クラッチ状態になりクラッチの磨耗が早くなりますので、ハンドルと一緒に握って下さい。



③走行クラッチレバーを前へ倒して、タイヤを回転させ吸い込み（清掃）作業を行います。

▲ 注意：

速度を変更する時は、必ず走行レバーを『切』に戻し走行クラッチを切ってから、変速レバーを操作して下さい。

《 旋回の仕方 》

旋回するときは、ファンクラッチレバーを『切り』にしてハンドルを押し下げて前輪を浮かし、後輪だけで回転してください。

▲ 注意

■所有者以外の人には使用させないで下さい。

■走行するときは、周囲の安全を確かめてから発進して下さい。

- ・側溝や路肩の走行は本機の重みで地盤が崩れる恐れがあります。地盤が軟弱な場所での使用は十分に注意して下さい。
- ・車輪接地面の勾配が 10° を越える傾斜地での使用は、転倒・暴走の危険があります。このような場所での使用は避けて下さい。

▲ 注意

- ・本機は平坦で、周辺に障害となる物がない広い場所に駐車して下さい。
- ・本機を離れるときには、必ずエンジンを停止して下さい。

トラックへの積み降ろしのしかた

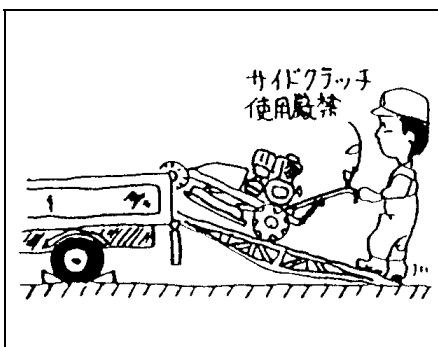
▲ 警告

- 運搬に使用する自動車は、荷台に天井のないトラックを使用して下さい。
- トラックへの積み降ろしは、平坦で安定した場所を選んで下さい。
- トラックへの積み降ろしの際には、車高調整レバーで、カバーがブリッジと接触しない位置まで調整しておいて下さい。
積み降ろしの際にカバーがブリッジの溝に絡み転倒する恐れがあります。
- ・ トラックは動き出さないようにエンジンを止め、サイドブレーキを引いて、確実に駐車をして下さい。
- ・ ブリッジのフックはトラックの荷台に段差のないよう又、外れないように確実に掛けて下さい。
- ・ 積み降ろし時に、ブリッジ上でレバー類の操作はしないで下さい。転倒の恐れがあります。
- ・ 積み降ろしは本機の車輪がそれぞれブリッジの中央に位置するようにして下さい。
- ・ 本機がブリッジとトラックの荷台との境を越える時には、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意して下さい。
- ・ トラックに積んで移動する時には、十分に強度のあるロープで本機を確実に固定し、更に荷台の上で動かないよう「車止め」を掛ければさらに安全です。

▲ 危険

本機の移動時は、必要以上に本機を傾けないで下さい。燃料が漏れ出す恐れがあります。万一、引火した場合には火災や死傷する恐れがあります。

■ 積み降ろしのしかた



- ① 周囲に危険物のない、平坦な場所を選んで下さい。
- ② 基準にあったブリッジを使用して下さい。
- ③ スロットルレバーは「高」と「低」の中間位置にして下さい。
- ④ 積み込み・積み降ろしは前進「①」位置で行ない、その他の位置に変速しないで下さい。

参考：ブリッジ基準

ブリッジは基準にあった、十分な強度のあるものを使用して下さい。

- 長さ…トラック荷台の高さの3.5倍以上あるもの。
- 幅 …本機の車輪幅にあったもの。
- 強度…本機重量、及び作業者の体重の総和に十分絶え得るもの。
- スリップしないように表面処理が施してあるもの。

《上手な作業のしかた》

吸い込み作業のしかた

▲ 警告

- 本機後側の排出カバーは必ず閉じて、又標準で装着されている収草バック類は必ず装着して作業を行って下さい。開けたまま或いは取り外したままの作業は、石等の異物が飛散し、作業者をはじめ周囲に被害を及ぼす危険があります。
- カバー及びフラップ類に変形又は破損がある場合には、必ず作業開始前までに修正、交換を済ませて下さい。
- 圃場内の障害物、側溝、軟弱な路肩、傾斜(限界傾斜角度 10°)のあるところ、地面の凸凹等危険な場所には目印を立てて誤って接近しないように注意して下さい。
- ファンにからみ付いた草や針金その他の異物を取り除く際には、必ずエンジンを停止してから行って下さい。
- 作業範囲以内に人(特に子供)が入り込まないように、吸い込み作業中である旨の立て札やガードロープを張るなどし、半径10m以内にこれらのものを近づけないで下さい。
- 本機装着のカバー類は、ファンカバーからの異物の飛散を最小限に抑える様設計されていますが、これを完全に防止するものではありません。作業前の圃場内異物の除去は、作業者の責任で確実に実施して下さい。

▲ 注意

- ・ 作業衣は、長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、スパイク靴や帽子又はヘルメット、すね当て、防護メガネ(製品付属)等を常に着用して下さい。
- ・ 切り株、石、針金、空カン、棒切れ等の異物は作業前に出来る限り取り除いて下さい。
- ・ 石等異物の多い圃場での作業については、これらの飛散による被害を防止するため特に安全には十分注意して下さい。

参考:

- 初めて本機を使用するときは石等の異物のない平坦地を選び、ゆっくりと吸い跡が少し重複するようにまっすぐ作業して下さい。

① 作業状況に合わせて車高調整レバーで作業高さを調整して下さい。

参考 ;

作業高さは、圃場内の凸部分に合わせて下さい。さもないと異物及び土との摩擦により、吸い込み口が早期に摩耗もしくは破損するばかりでなく、これらの飛散による事故の危険があります。

② エンジンを始動させて下さい。

③ 変速レバーを「①」又は「②」位置にして下さい。

④ スロットルレバーを「HI」位置にして下さい。

⑤ ファンクラッチレバーをゆっくりと「④」位置まで引き上げて下さい。

▲ 警告

- 変速の操作は必ず平地で行って下さい。傾斜地作業中の変速操作は旋回時のギヤ抜けの原因となり、転落事故の恐れがあります。
- エンジンに草、木の葉等を堆積させないで下さい。これらの物がエンジンの周辺に堆積するとオーバーヒートによる焼付きや火災の原因になったりします。又、吸い込み性能の低下及び燃料消費量のアップの原因にもなります。こまめに清掃して下さい。
- 安全のため、最初は「1速」位置からスタートし、周囲の安全を確かめた上で作業条件に合った作業速度にして下さい。
- 作業中障害物に当たった時はすぐにエンジンを停止させ、万一の始動を防止する為点火キャップを点火プラグから外したうえで損傷を調べてください。異常はすぐに修理して下さい。修理しないで再始動すると思わぬ事故につながります。

参考：

- 落ち葉の量が多く、頻繁にエンジンがストップするようであれば作業速度を一段落すか、作業高さ一段あげるか、数度にわけて作業して下さい。

《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》

▲ 注意

- 出荷時本機にオイルは注油されていますが、ご使用前には、必ず指の箇所指定のオイルが指定の量だけ注油されているか確認して下さい。
- 定期的なオイル交換は、本機を常に最良の状態を使用するために是非必要です。
- 各部オイルの点検・交換・注油をする場合には、必ず本機を平坦な広い場所に置いてエンジンを暖機運転した後停止し、本機各部が触っても熱くない程度に冷えるのを（約5分以上）待ってから作業を行って下さい。
 - … エンジン停止後、すぐに作業を行うと …
 - * エンジン本体はかなりの高温になっており、火傷の危険があります。
 - * エンジン停止直後はエンジン各部、ミッション各部にオイルがまだ残っており、正確なオイル量が示されません。

■ 交換後の廃油は適切な処理をして下さい ■

ミッションオイルの交換

※注油は少しずつおこなってください。一度に注油しようとする、エアが抜けずに注油口よりすぐにオイルが溢れ出ます。注油口まで油面がきていることを確認してください。



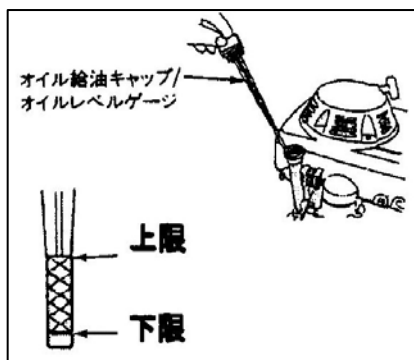
- ① オイルを受ける適当な容器を用意します。
- ② ミッションケース左側面下部(車軸下部)のドレンプラグ(ボルト14mm)(排油栓)を取り外し、オイルを抜き取ります。
- ③ ミッションオイル(#90)を0.07ℓ注油して、ドレンプラグを確実に取り付け下さい。

参考：

- ・ミッションオイル注油の際は、機械の右側を下に倒して、ドレンプラグより注入してください。

ミッションオイル交換の目安

初回：20時間目、2回目以降：100時間毎



エンジンオイルの点検・補給・交換

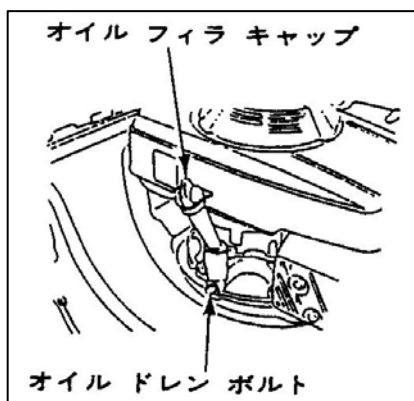
◎ 点検・補給…

- ① 毎日、もしくは8時間毎に〈9頁…エンジンオイルの点検〉を参考にエンジンオイルの量、及び汚れを目視で点検し規定量でない場合、及び汚れがひどい場合には、補給又は全量交換(下記参照)して下さい。
(使用するエンジンオイルの質及び量は10頁参照)

◎ 交換…

- ① オイル給油キャップを外し、オールドレンボルトを外します。
- ② エンジンオイルを抜き取ります。
- ③ 排出後はドレンプラグを元通りに締め付け、新しい指定のエンジンオイルを規定量まで給油して下さい。
〈9頁…エンジンオイルの点検〉参照

〈 エンジンオイル容量：0.65リットル 〉



参考：

- ・排油の際には、同時に給油栓も取り外しておく、オイルが抜き取りやすくなります。
- ・エンジンオイル給油時は、エンジン本体を水平にしないと規定量のオイルが給油できません。〈9頁…エンジンオイルの点検〉参照

交換の目安

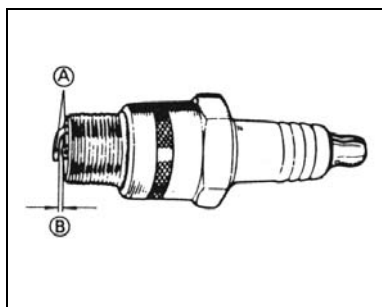
初回：5時間目、2回目以降：50時間毎

《各部の点検・整備・調整のしかた》

⚠ 警告

ガソリンやシンナ等の引火性の高い洗浄油は危険ですから使用しないで下さい。

点火プラグの点検・調整のしかた



- ① プラグレンチで点火プラグを外し、電極部分①にカーボンが付着していたらワイヤブラシでこれを除去し、湿りがあればこれを拭き取って下さい。
- ② 中央陶器部にヒビワレ、また電極部分に消耗が認められた場合には点火プラグを新品と交換して下さい。
- ③ 点火プラグの電極隙間②を 0.7～0.8mm に調整して下さい。

参考：

締め付け時は、初め手で軽くねじ込んでからプラグレンチを使用して下さい。

初めからプラグレンチで締め込むと、ネジ山を潰すことがありますので注意して下さい。

＜使用点火プラグは、22 項の仕様書を参照＞

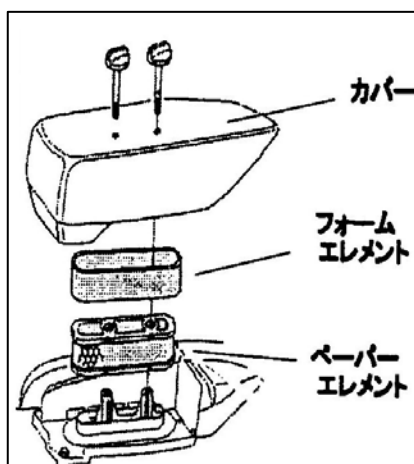
エアクリーナの清掃のしかた

⚠ 警告

- エアクリーナ・リコイルスタータが草屑等で目詰まりを起こしたまま作業を続けると、出力不足や燃料消費が多くなるばかりでなく、排ガス温度が上昇することにより燃料への引火火災の原因ともなり大変危険です。必ず定期的に点検し清掃して下さい。

…エアクリーナを外したままエンジンを始動させないで下さい。

ゴミやほこりをエンジン内部へ吸い込み、エンジン不調や異常摩耗の原因となります。



- ① クランプ2ヶ所を外し、エアクリーナカバーを取り外して下さい。
- ② ホコリやゴミを気化器側へ入れないように注意しながらエレメントを取り出して下さい。
- ③ フォームエレメントは、中性洗剤で洗浄後よく絞り乾燥させて下さい。
- ④ ペーパーエレメントは軽く叩くか、内部からエア吹きしてホコリやゴミを落として下さい。
- ⑤ ケース内部の汚れをウエス等でふき取り、元の通りに組み付けて下さい。

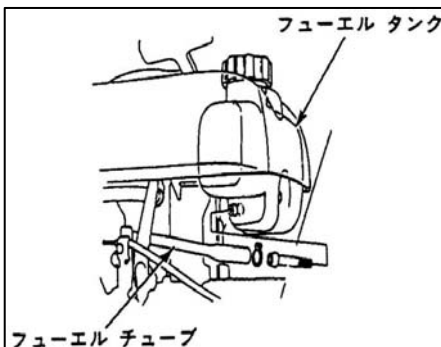
参考：

- ・ 洗浄時、フォームエレメントは強く引っ張ったりもんだりしないで下さい。エレメントが破れ使用できなくなります。

…エアクリーナの清掃、交換時期について…

	清掃	交換
フォームエレメント …	25 時間毎	100 時間毎
ペーパーエレメント …	50 時間毎	200 時間毎

- ・チリやホコリの多い作業環境での使用は頻繁に清掃するように心掛けて下さい。
- ・エアクリーナの管理如何により、刈取性能、燃料消費、エンジン耐久性に大きく影響します。常に清浄された状態で作業を行う様、注意して下さい。



燃料パイプの点検のしかた

⚠ 危険 くわエタバコや裸火照明での作業禁止

- ・燃料パイプなどのゴム製品は、使わなくても劣化します。締め付けバンドと共に3年ごと、または傷んだ時には新品と交換して下さい。
- ・パイプ類や締め付けバンドが緩んだり、傷んだりしていないか常に注意して下さい。

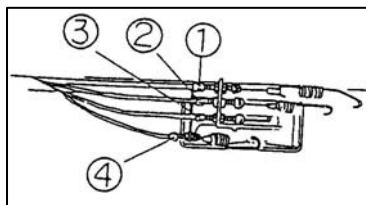
参考；

パイプ類の交換時に、パイプ内にホコリやチリが入らないように注意して下さい。

各部ワイヤ調整のしかた

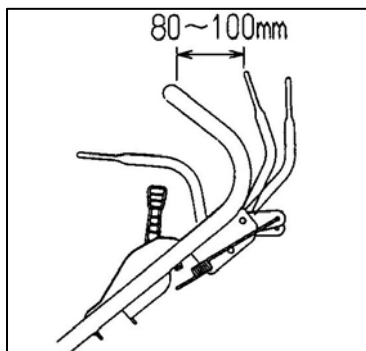
⚠ 警告

各ワイヤを調整する前には必ず本機を平坦な広い場所に置き、調整はエンジンを停止して行って下さい。



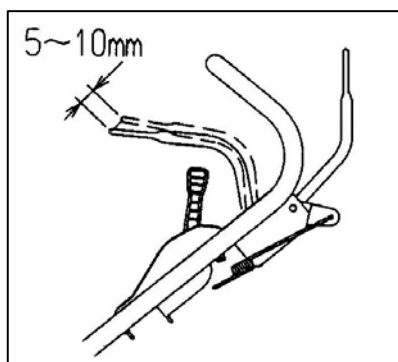
■ ワイヤの組付け位置

- ① 走行ワイヤ
- ② ブレードワイヤ
- ③ スロットルワイヤ
- ④ 走行チェンジワイヤ



■ 走行クラッチワイヤ調整

- ・走行レバーとハンドルの感覚が 80mm～100mm のところで走行クラッチが『入』になるようにアジャストネジを調整し、ロックナットを確実に締め付けて下さい。
- ・エンジンを始動し、走行レバーを操作して、走行・停止が正しく作動する事を確認して下さい。

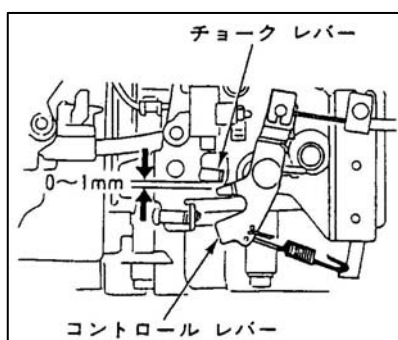


■ ブレード（ファン）ワイヤ調整

- ・ファンクラッチレバーの遊びが5~10mmあるようにアジャストネジを調整し、確実に締め付けて下さい。
- ・エンジンを始動し、ファンレバーを操作して、ファンが正しく回転・停止する事を確認して下さい。

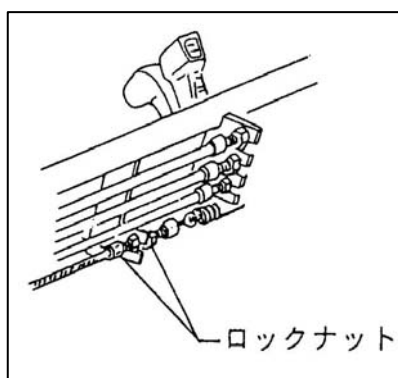
▲ 注意

半クラッチ,半ブレーキにならないようにしてください。



■ スロットルワイヤ調整

- ・スロットルレバーを『H I』に合わせ、エンジンのコントロールレバーがチョークレバーに接する手前の位置になるようにアジャストネジを調整し、ロックナットを確実に締め付けて下さい。
- ・エンジンを始動し、スロットルレバーを操作して、チョーク・H I・L O・停止でエンジンが正しく作動する事を確認して下さい。



■ 走行チェンジワイヤ調整

- ・走行チェンジワイヤに戻しバネが組み込まれていますので変速レバーには遊びがありません。ワイヤを軽く引っ張って組付けて下さい。
- ・エンジンを始動し、変速レバーを操作して、高速、低速で走行する事を確認して下さい。

▲ 注意：

変速レバーは、走行中に操作しないでください。

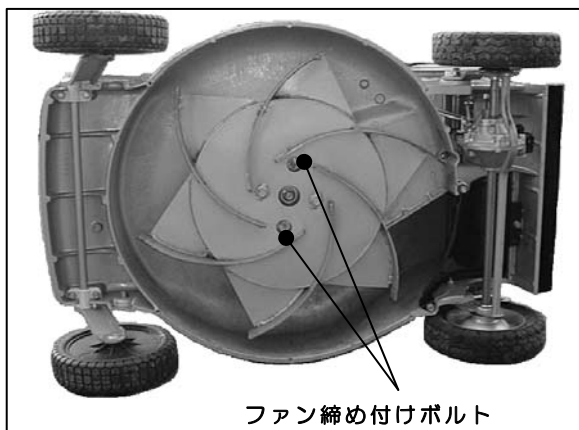
《ファンの点検・交換のしかた》

ファンの点検・交換

■作業を安全に行うため、エンジンを停止した後にファンの作業前点検を行って下さい■

⚠ 警告

- ・ファンを交換する際には必ず、メーカー純正品とご指定下さい。メーカー純正品以外の使用による故障・事故については保証の対象外となります。



ファン締め付けボルト

- ・前回作業時に、異物吸い込みにより、ファンの曲がりや欠損が生じていないか点検して下さい。ファンの摩耗、割れ、曲がり等を放置すると、作業中ファンが折損して破片が飛び出し、作業者や付近に居る人に当たったり、振動による故障の原因となります。
- ・この作業は必ず二人で行い、作業中刈取部が落下しないようハンドルをしっかりと支えながら行って下さい。

- ・点検・交換は丈夫な手袋（皮手袋等）をつけてケガには十分注意して下さい。

⚠ 注意

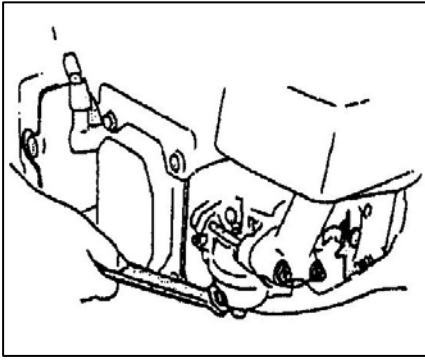
- ・ファンの交換・修正等の作業は適切な工具と整備技術をおもちの方が実施して下さい。
- ・ファン締め付けボルトも摩耗します。ファン交換の際にはファン締め付けボルトも同時に交換するようにし、決して他のボルトで代用しないで下さい。
- ・作業をする時は手を滑らして怪我をしないように十分注意して下さい。
- ・本機を長時間傾斜させたまま放置しないで下さい。始動性が悪くなる場合があります。
- ・ファンは、2個のファン締め付けボルト（メック加工）で固定されています。

《長期保管のしかた》

⚠ 危険

■エンジンを停止して下さい。

- ・燃料を抜く時は風通しの良い場所で、くわえタバコや裸火照明等の火気には十分注意し、抜いた燃料の取扱いには十分に注意して下さい。
- ・本機は、固い平坦な場所で水平にして保管して下さい。
- ・燃料タンク内のガソリンを抜く時、又は本機にカバーをかける時にはエンジンとマフラーが十分に冷えているのを確認してからして下さい。



①本機を30日以上使用しないときは、燃料変質による始動不良、又は運転不調にならないように燃料タンク及び気化器内の燃料を抜き取って下さい。

- ・燃料タンク内の燃料は、燃料フィルタポットを外し、受け皿等を当ててから燃料コックを「開(OFF)」位置にして抜き取って下さい。
- ・気化器内の燃料は下部のフロート室締め付けボルトを外して抜いて下さい。

②エンジン及び本機の外面をオイルの染みた布で清掃して下さい。

③エンジンオイルを交換して下さい。〈16頁…エンジンオイル交換参照〉

④各部の清掃を十分に行ってください。特にリコイルスタータ・エアクリーナ・マフラ・気化器付近やベルトカバー内に堆積した泥やホコリをエア吹き等できれいに取り除き、サビが出ている箇所はサビを取り除いて防錆塗料を塗布しておいて下さい。

…草やホコリが堆積したまま作業を続けると…

草屑等による目詰まりでエンジンが過熱し、焼き付や火災の原因にもなりかねません。

参考;

吸引ユニット内に付着した泥や草屑はこれが乾かない内にホース等で加圧した水で清掃を行うと比較的に洗い落とすことができます。

…このとき、エンジンの電装関係や気化器、エアクリーナ、マフラ排気口に水がかからないようにカバーをかける等して注意して下さい。エンジン始動不良の原因になります。…

⑤各給脂・注油箇所にそれぞれ注油をして、不具合箇所は修理しておいて下さい。

⑥屋根のある風通しの良い湿気の少ない場所に本機を水平にして保管して下さい。

⑦本機にカバー等をかけて、ほこりがつかないようにして下さい。

(*本機カバーは付属していません。)

《その他の点検》

①各操作レバーが正しく作動するか確かめて下さい。(毎回始業時)

②本機を少し動かして異常音、異常発熱の有無を調べて下さい。

③各部を十分に馴染ませる為、最初の2～3時間は無理な作業はさけて下さい。

④作業後の手入れ、及び定期的な点検も忘れずに行ってください。

〈24頁…定期自主点検表参照〉

⑤各部のボルト・ナット類に緩み、脱落がないか確認して下さい。

⑥本機全体を見回し、各部にオイルの漏れがないか点検して下さい。

●もしオイル漏れが確認できた場合には、お買い上げの販売店へご相談下さい。

●オイル漏れの状態で使い続けると危険なばかりか、本機の破損にもつながります。

《仕 様》 (参考数値)

名 称	パークスイーパー	
型 式	PS560	
全長×全幅×前高(mm)	1,800 × 600 × 1090	
作 業 幅(mm)	570(平面作業時)	
作 業 高(mm)	①5 ②20 ③33	
ナイフ	特殊ファン	
重量 (kg)	56	
バック容量(ℓ)	70	
走行クラッチ方式	デッドマン式噛み合いクラッチ	
作業クラッチ方式	デッドマン式ブレーキ付単板クラッチ	
速度 (Km/h)	①1.3 ②3.0	
ミッションオイル(ℓ)	0.07(#90)	
エ ン ジ ン	名 称	ホンダ
	型 式	GXV160
	最大出力(PS/RPM)	5.5/3,600
	始動方式	リコイルスタータ
	点火プラグ	W16EP-U,W16EPR-U(ND)/BPR5ES, BP5S(NGK)
	タンク容量(ℓ)	2.0
	オイル容量(ℓ)	0.65

※本仕様は改良のため予告なく変更する事があります。

《機械を他人に貸すときは…》

所有者以外の人には使用させないのが原則ですが、やむを得ず機械を他人に貸すときには、取扱い方法を説明し、「取扱説明書」をよく読んでもらい、取扱い方法や安全のポイントを十分理解してから作業をするように指導して下さい。

機械と一緒に「取扱説明書」も貸して上げて下さい。

親切心から機械を他人に貸して、借りた人が不慣れなために思わぬ事故を起こしたりするとせっかくの親切があだとなってしまいます。

《工具袋・同梱品明細》

No.	部 品 名	規 格 ・ 寸 法	個 数	備 考
1.	取扱説明書		1	
2.	品質保証書		1	
3.	プラグレンチ	21mm	1	
4.	プラグレンチバー	6×120	1	
5.	ノブナット	M8	2	
6.	角根丸頭ボルト	M8×40	2	
7.	六角ボルト	M8×25(8T)	2	
8.	六角袋ナット	M8	4	
9.	バネ座金	8	4	
10.	平座金8	8	6	
11.	両口スパナ	10×12	1	
12.	ゴーグル	防曇タイプ	1	保護具

《消耗品明細》

No.	部 品 名	部 品 番 号	個 数 / 台	備 考
1.	ファン	0911-50100-01	1	
2.	ファン締付けボルト	89-1254-100252	2	座付きボルト M10×1.25×25
3.	ブレードワイヤ	83-1021-945-001	1	
4.	走行ワイヤ	83-1021-932-001	1	
5.	スロットルワイヤ(H)	83-1020-955-001	1	
6.	走行チェンジワイヤ	83-1020-936-001	1	
7.	収草バック[B]	80-1022-8560-00	1	
8.	危険マーク②	83-1484-921-00	2	
	// ①	83-1516-918-00	1	
	警告マーク	0253-72500	1	車への乗せ降ろし…
	注意マーク①	83-1516-915-00	1	安全のために…
	//	83-1516-908-00	1	このカバーなし…
	//	83-1487-908-00	1	保管/火災注意・火気危険…
	//	83-1020-929-00	1	事故防止…
	//	80-1020-928-00	1	プラグキャップ

《定期自主点検表》

★点検や整備を怠ると事故や故障の原因となる事があります。正常な機能を発揮させ、いつも安全な状態であるようにこの「定期自主点検表」を参考に点検を行って下さい。

★年次点検は1年に1回、月次点検は1ヶ月に1回、始業点検は作業を開始する前に毎日点検を行うようにして下さい。

項目	点検内容	点検実施時期				
		始業	月次	年次		
原 動 機	本 体	①かかり具合、異音	始動の際、容易に起動するか。	○	○	○
		②回転数と加速の状態	回転速度を徐々に上げ、正常に滑らかに回転するか。	○	○	○
		③排気の状態及びガス漏れ	排気色、排気臭及び排気音は正常か。	○	○	○
		④エアクリーナの損傷、弛み、汚れ	損傷なく、取付部に弛み、著しい汚れはないか。		○	○
		⑤シリンダヘッドと各マニホールド締付部の弛み	ガス漏れ、亀裂、著しい腐食はないか。 *（正常締付トルクで弛みはないか）			○
		*⑥弁隙間	（正規の隙間であるか）			○
		*⑦圧縮圧力	（正規の圧縮圧力であるか）			○
		⑧エンジンベースの亀裂、変形、ボルト・ナットの弛み。	エンジンベースに亀裂、変形はないか。 ボルト・ナットに弛みはないか。	○	○	○
	潤滑装置	①油量、汚れ。	オイルの量は適切か、オイルに汚れ、水・金属等の混入はないか。	○	○	○
		②油漏れ。	オイルシール、ガスケット部に油漏れはないか。	○	○	○
燃料装置	①燃料漏れ。	燃料の漏れはないか。	○	○	○	
	②燃料フィルタの詰まり。	著しい汚れ、変形、目詰まりはないか。		○	○	
	③燃料の量・質。	燃料が入っているか、又質は良いか。	○	○	○	
電気装置	電気配線の接続部の弛み、損傷。	ハーネス接続は適切か、又弛み、損傷はないか。		○	○	
清浄装置	①エアクリーナエレメントの汚れ	エアクリーナエレメントに汚れはないか。	○	○	○	
	②エレメントの破損。	エレメントに破れ、スリ切れはないか。	○	○	○	
冷却系統	①リコイルカバーへの草屑等の目詰まり。	リコイルカバーが草屑等で目詰まりしていないか。	○	○	○	
	②マフラーの草屑等の堆積。	マフラー周辺に草屑が堆積していないか。	○	○	○	
伝達装置	ユニバーサルジョイント	①異音。以上発熱及び作動	作動に異常はないか、又、異音、異常発熱はないか。	○	○	○
		②損傷、汚れ。	亀裂、損傷、著しい汚れはないか。		○	○
	ミッション	①異音、異常発熱及び作動。	作動に異常はないか、又、異音、異常発熱はないか。		○	○
		②油量、汚れ。	オイルの量は適切か、又、著しい汚れはないか。			○
③油漏れ。	オイルシール、パッキン部に油漏れはないか。	○	○	○		
車体	車 体	亀裂、変形及び取付ボルト・ナットの弛み、脱落。	フレームの亀裂、変形、ボルト・ナットの弛み、脱落はないか。		○	○
	カバー	亀裂、変形、腐食。	亀裂、変形、腐食はないか。			○
レバー、ワイヤ	レバー、ワイヤの損傷、弛み、ガタ、割ピンの欠損。	作動及び取付状態、著しい損傷及び弛み、ガタ、脱落はないか。	○	○	○	
走行装置	タイヤ (ホイール)	①空気圧及び溝の深さ。	基準値内であること。	○	○	○
		②亀裂、損傷及び偏摩耗。	亀裂、損傷及び偏摩耗はないか。	○	○	○
		③金属片、石その他の異物の噛み込み。	異物の噛み込みはないか。	○	○	○
		④ボルト・ナットの弛み、脱落。	ボルト・ナットの弛み、脱落はないか。	○	○	○
		⑤ガタ、異音。	取付部に異音、ガタはないか。		○	○
表示マーク	損傷。	警告ラベル及び銘板が損傷なく取り付けられているか。		○	○	

※ *印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

《自己診断表》





もし次のような現象が発生した場合には、取扱説明書を参照して適切な処置をして下さい。

現象	原因	処置
落ち葉がうまく放出しない。	落ち葉が湿っている。	落ち葉が乾燥してから作業する。
	落ち葉が多い。	作業高さを高くして数度に分け作業する。
	作業高さが低い。	作業高さを高くする。
	エンジン回転数が低い。	最高回転数にする。
	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
吸い残しが出る。	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
	エンジン回転数が低い。	最高回転にする。
	ファンの摩耗、破損。	新しいファンと交換する。
	ファンカバー内への草屑の堆積。	ファンカバー内面を清掃する。
	落ち葉が多い。	数度に分け作業する。
土削りを発生する。	作業高さが低い。	作業高さを高くする。
	旋回速度が速い。	旋回時の速度を落とす。
	地形にうねりがある。	作業パターン(刈取方向)を変える。
	地形に起伏(凸凹)が多い。	作業高さを高くする。
ファンがスリップする。	ファンワイヤーが伸びている。	ファンワイヤーを調節する。
	ファンカバー内に異物が詰まっている。	ファンカバー内を清掃する。
	BBCのクラッチが磨耗している。	BBCを交換する。
変速しない。	変速の位置がズれている。	変速ワイヤーの調整
	ミッションの不具合。	ミッションの修理。
振動が大きい。	ファンのバランスが悪い。	ファンを修正する。
	ファンの損傷。	新しいファンと交換するか、修正する。
	BBCのベアリングが破損している。	BBCを交換する。
	エンジンPTO軸が曲がっている。	エンジンPTO軸を交換する。
	ファンカバー下板の破損。	ファンカバー下板の交換。
作業負荷が大きい。	エンジン回転が低い。	エンジン回転を上げる。
	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
	ファンの回転軸周りに草が堆積、又は巻きついている。	ファン周りをきれいに清掃する。
	落ち葉が多い。	作業高さを高くして数度に分け作業する。
	作業高さが低い。	作業高さを高くする。
	圃場が軟弱である。	圃場が乾くまで作業を中断する。

※ わからない場合には、お買い上げいただいた販売店にご相談下さい。

《エンジンの不調とその処理方法》

もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し、適切な処置をして下さい。

現 象	原 因	処 置
始動困難な場合 (始動しない場合)	スロットルレバーが「始動」の位置でない。	スロットルレバーを「始動」の位置にする。
	チョークレバーを引いていない。	エンジン冷却時、チョークレバーを  位置にする。
	燃料が流れない。	燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を除去する。 燃料コックのストレーナを取り外し、カップ内の沈殿物を除去するとともに付着しているゴミを取り除く。
	燃料送油系統に、空気や水が混入している。	異物を取り除き、締付バンドを点検し、損傷があれば新品と交換する。
	寒冷時にオイルの粘度が高く、エンジンの回転が重い。	気温によってオイルを使い分けする。
	点火コイル、又はユニットの不良。	*点火コイル、又はユニットを交換する。
	点火プラグの不調。	点火プラグの電極の隙間を点検し、調整する。 新しい点火プラグと交換する。
出力不足の場合	燃料不足。	燃料を補給する。
	エアクリーナの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	チョークが完全に開いていない。	チョークレバーを完全に戻す。  位置にする。
	冷却系統が目詰まりをしている。	リコイルスタータ周辺を清掃する。
突然停止した場合	燃料不足。	燃料を補給する。
	燃料コックが閉じている。	燃料コックを開く。
排気色が異常に黒い場合	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	エアクリーナエレメントの目詰まり。	エレメントを清掃する。
マフラから黒煙が出て出力が低下した場合	エアクリーナエレメントの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	チョークが完全に開いていない。	チョークレバーを完全に戻す。  位置にする。
マフラから青白煙が出た場合	エンジンオイルの入れすぎ。	正規のオイル量にする。
	シリンダ・ピストンリングの摩耗。	*リングを交換する。
エンジン回転が安定しない(上昇しない)	チョークが完全に開いていない。	チョークレバーを完全に戻す。  位置にする。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
しばらくするとエンストする。	点火コイルの不良。	*点火コイルを交換する。
	燃料フィルタの目詰まり。	燃料フィルタを清掃する。
排気に刺激臭がある。	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。

※ *印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

※ わからない場合は、お買い上げいただきました販売店にご相談下さい。



株式会社
オーレック

本 社	〒834-0195	福岡県八女郡広川町日吉548-22	TEL. 0943-32-5002(代) FAX. 0943-32-5009
仙台営業所	〒983-0821	宮城県仙台市宮城野区岩切 2-1-15	TEL. 022-255-3009(代) FAX. 022-255-3039
長野サービス センター	〒387-0012	長野県千曲市桜堂字西沖335-1	TEL. 026-273-5686(代) FAX. 026-273-5687
関東営業所	〒337-0051	埼玉県久喜市菖蒲町菖蒲2800	TEL. 0480-87-3008(代) FAX. 0480-87-3009
名古屋営業所	〒491-0871	愛知県一宮市浅野字馬東41-1	TEL. 0586-77-7002(代) FAX. 0586-77-7003
岡山営業所	〒700-0951	岡山県岡山市田中123-104	TEL. 086-245-2568(代) FAX. 086-245-2569
福岡営業所	〒834-0195	福岡県八女郡広川町日吉548-22	TEL. 0943-32-4778(代) FAX. 0943-32-3518
鹿児島営業所	〒899-6404	鹿児島県霧島市溝辺町麓843-6	TEL. 0995-58-3991(代) FAX. 0995-58-2491